

大分デバイステクノロジー

152

働き方改革

大分デバイステクノロジー（大分市、安部征吉社長）は、パワー半導体製品の企画・設計から量産まで一貫対応する半導体専門企業。新卒採用への応募が激減した2012年以降、働き方改革の取り組みに本格着手した。時間単位で有給休暇を取得できるようにしたほか、社員が気軽に意見を出せる「気づき提案制度」を設ける。働きやすい環境を整えてきたことが奏功し、最近の離職率は約7%と高い定着率を維持。生産性も向上している。（東九州・大塚久美）

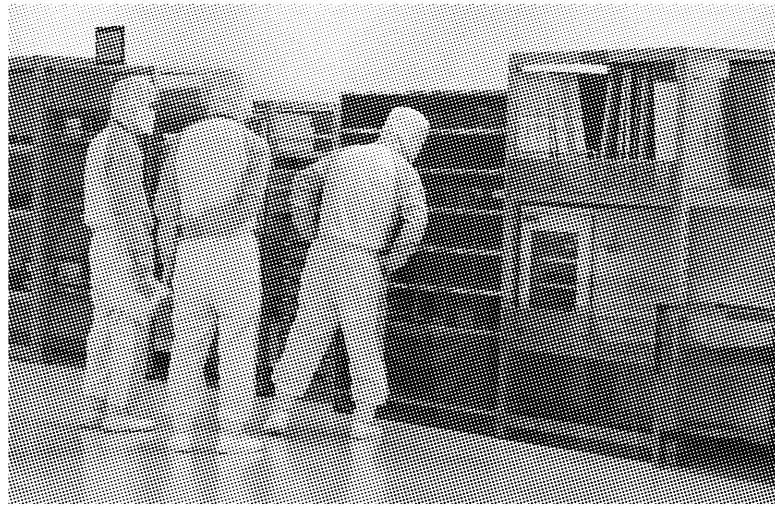
エンジンからモータ 高校生を積極採用し始
1への置き換えのほめたこと新卒採用が
か、太陽光発電や風力 次第に困難になった。
発電の拡大など脱炭素 そこで安部社長は、社
社会の実現に向けた動 員が働きやすい、良
きが必要となるパワ 会社となれば応募も来
半導体。同社は「半導 るはずと考え、働き方
体前工程と後工程の両 改革の取り組みを進め
方ができる強みを持 た。

ち、パワーデバイスの 17年から勤怠管理シ
設計開発までできる企 ステムを導入して社員
業」（安部社長）だ。 の労働時間や年休取得
事業拡大には人材の 状況の社内共有に着
確保が重要。しかし同 手。有給休暇の取得率
社では、12年ごろから 位を従来の半日から時
大手企業が地元の工業 間単位に見直して休

時間単位で有休取得

多能工育成 現場切り盛り

やすくした。 化については「技能者
技能職の現場では2 の60%はまだ単工程し
種類以上の仕事ができ できないが、装置の
る多能工化を進めて人 メンテナンスや現場の
材育成につなげた結 管理などステップアッ
果、休みが取りやすい プの好機も増えてい
環境となった。多能工 く」という。



クリーンルーム内の安全衛生委員会による巡視。棚に落下防止措置をしているかなどを点検

作業の効率化につい ても毎月、安全衛生委
員会による改善指導を の後も改良を加え、22
実施し、現場での集計 年度から技術職につい
作業や分析業務の大幅 ても人事考課で不利益
な時間削減につなげて ならないよう基本給
いる。 ベースで考慮した給与
福利厚生面も充実さ えて伝え切ることまで
せている。45歳以上を 体系に見直した。新入
対象に脳の磁気共鳴断 社員に対しても、入社
層撮影装置（MRI） 予定だ。

鏡検査の費用を10年以 上前から補助する。4
月からは35歳以上の女 性社員向けにマンモグ
ラフィー検査費用を半 額補助している。

「当社の中心は社員 たち」（同）との考え
から、年に1回、全社 員を集めて社長による
経営状況、決算と次期 の行動計画を説明し、
社員が一丸となり仕事 に取り組み機運を醸成
している。



「気づき提案」を受けて工場内に設置した折り畳み式拒架。箱から出した状態で取り付け、説明は見やすい位置にある

月に10日間（従来の2 倍）の有給休暇付与を スタートしている。 技能伝承では定年を